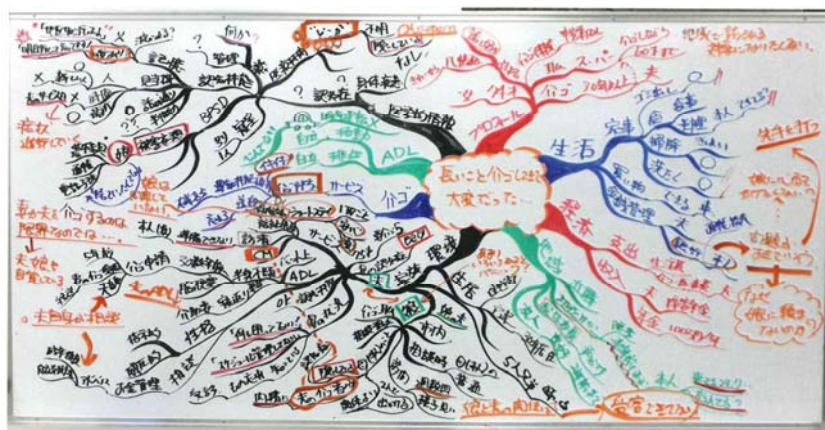


「多職種による見える事例検討会」参加のご案内

『見える事例検討会（通称：見え検）』とは、多職種・多部門で行う事例検討を可視化（見える化）したものです。独自の進行手順とファシリテーション手法に基づき、可視化ツール（「見え検マップ」と「アクションプラン型エコマップ（見え検式エコマップ）」）を用いて行います。多職種・多部門の参加者が情報・状況を共有し、課題分析を行い、解決の糸口を見つけ、アクションプランをつくっていく事例検討の手法です。

終了時の見え検マップ



「見え検マップ」は、対象となる事例の状況を把握するために、あらかじめ定めた8つの領域※1の内容について、マインドマップ※2の書き方をもとに、文章ではなく、キーワードとなる単語を記述していくものです。これにより、「あれはどうなんだろう」「この人はどう思っているのだろう」などの疑問が促されます。また、出てきた情報同士の関係が見えやすく、事例の状況がイメージしやすくなり、課題も見えやすくなります。

- ※ 1) 現在主に使っている「見え検マップ」のテンプレートには、認知症版と緩和ケア版があります。この2つには8つの領域を基本テンプレートとして使っています。他の検討会では、必ずしも8つの領域になるとは限りません。
- ※ 2) マインドマップは Buzan Organization Ltd.(1990)の登録商標です。www.ThinkBuzan.com
- ※ 見える事例検討会を行う場合は、見える事例検討会ファシリテーター養成講座を終了したファシリテーターの元で行っています。

【見え検の情報】

facebook <http://www.facebook.com/mierujirei>

見える事例検討会とは

「目的」

課題解決 : 事例の根底にある課題を明らかにし、支援の方向性を見出す

援助技術の向上 : 参加している支援者の、包括的視点からの援助技術を高める

ネットワーク構築: 実際に地域で動ける多職種による支援者ネットワークを構築する

「特徴」

- ① 事例の配布資料なし
- ② マッピングで見える化
- ③ ファシリテーターが2人+1（見え検マップ）
- ④ 事例提供はインタビュー形式
- ⑤ 事例に関わっていない人も参加



- 1、 事例提供者の準備・負担が少ない
- 2、 事例の全体や根底にあるものが見えてくる
- 3、 ファシリテーターも楽にできて、皆で考える雰囲気ができる
- 4、 事例提供者の思考にとらわれず、新しい視点が生まれやすく、意見がしやすい
- 5、 新しい視点が生まれ、事例の解決に結びつきやすい

「参加者の声」

1. 誰も責められない
2. 事例提供者が元気になる
3. 参加者から意見が出てくる
4. 参加者に一体感が生まれる
5. ポジティブな意見が出る
6. 参加者が相互尊重するようになる
7. 日常的に実践的なネットワークができる

医療介護の連携推進に期待

「見える事例検討会」には多職種・多部門の連携がよりよい視点の広がりを生み出します。医療と介護の連携に必要な社会資源の理解、それぞれの職種の役割を直接肌で感じていただくことは、良質な連携推進に不可欠なことと考えております。是非とも、ご参加いただきこれからの地域医療介護連携を担う多業種の役割と理解を切に願っております。

参考（参加職種）

医師、認定看護師、薬剤師、看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士、ヘルパー、PSW、CSW、MSW、ケアマネジャー、地域包括支援センター、保健所、保健センター社会福祉協議会、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、地域住民、ボランティア、民生委員、弁護士、行政書士、行政機関、認知症家族の会、一般参加... etc

※開催状況により参加職種は変動いたします。